



日増しに冬の訪れを感じる季節となりました。会員の皆様におかれましては、年末を目前に控え、調査書作成や定期テスト、進路面談、三者面談の準備等、お忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。さて、中社研だより6号が完成しました。今号は、10月例会の報告と11月例会についてです。よろしくお願いします。

## 《10月例会の報告》

10月16日(火)に海浜打瀬小学校・稲毛小学校・金沢小学校の三会場で授業研究が行われました。中学校社会科部会では、区ごとに小学校での授業研究・研究協議に参加しました。どのブロックでも多くの先生方が参加され、授業、研究協議会ともに盛会となりました。授業を展開していただいた提案者の先生及び、会場校の先生方に感謝申し上げます。



### 【花見川区・美浜区ブロック】

**会場校** 海浜打瀬小学校 **題材名** 「明治の国づくりを進めた人々」 **授業者** 郡司 恭大 先生

**内容** 本単元で取り扱う、江戸時代末期から明治時代にかけての数十年間は、わずかな間に大きな社会変化が起きた時期である。この急激な変化にある、「欧米諸国に学び、近代化を図ることで国力を充実させよう」という思いや願いを捉えさせるため、本時では、桜井静(民権家)の「大日本国会法草案」と伊藤博文(政府)の「大日本帝国憲法」の比較を通して、政府側の意向をつかむ内容であった。児童は、資料を読み取る時に現れる疑問や驚き、発見等を吹き出しに書いて表現し、それを共有することで思考を深めることができた。

〔協議会から〕

Q: 児童にとって高度な内容ではなかったか。

A: 指導案検討で、比較する憲法の条文を精選したり、わかりやすい表現に改めたりしたため、しっかりと読み取ることができた。

〔意見・感想〕

- ・これまでの授業の流れが掲示物として残っており、授業中もその掲示物を参考に意見が出されるなど、指導がしっかりと積み重ねられていると感じた。
- ・意見交換をするために自然と交流が始まったり、出された意見に同調したりと、非常に良い雰囲気での授業が進んでおり、普段の学級経営がうまくいっていると感じる授業だった。

〔助言者より〕

- ・桜井静という教科書に載っていない千葉県の民権家を取り上げるなど、よく教材研究がなされていた。
- ・主役は子どもたちなので、教師は引き出しをたくさん用意しておき、それらを全て開けることのできるマスターキーのような力を身につけなくてはならない。

### 【稲毛区・若葉区ブロック】

**会場校** 稲毛小学校 **題材名** 「明治の国づくりを進めた人々」 **授業者** 鱸 真究 先生

**内容** 江戸時代の末期、ペリーの来航が日本国内にどのような影響を与えたかを、資料に基づいて分析を行った。はじめに、アメリカ大統領の手紙を提示し、ペリー来航の目的を予想させた。次に、年表と一揆・打ちこわしの発生件数に関するグラフを重ね合わせることで、因果関係があったことに気づかせた。また、開国後に日本国内の物価が急上昇したことを示す風刺画から、幕府への不満が高まった理由を考えさせ、一揆・打ちこわしの発生件数のグラフとの関係性を見つけ出した。最後に、開国に対して大名たちも不満を募らせたこ

とを確認し、次時以降にどのような展開になるかを予想させ、授業の結びとした。資料の考察を中心とした授業展開であり、児童の主体的な学びを随所に見ることができる実践であった。

〔意見・感想〕

- ・一揆・打ちこわしの発生件数の推移のグラフは、時代のスケールが狭かった。
- ・農民は、ペリーの来航（開国）と物価高を結び付けて考えてはいない。
- ・資料の読み取りについて、全体での活動だけでなく、個人個人が資料と向き合い、考える時間も大切だったのではないかと。「幕府への不満」というワードも、子どもたちから出すことができたのではないかと。

〔授業者より〕

- ・今回の授業は、「開国が与えた影響」について深めたかった。「幕府への不満」が「倒幕」につながったことがわかる資料があれば、ぜひ教えてください。

〔助言者より〕

- ・用語の説明が丁寧であった。丁寧な用語の解説が、難しい資料の読み取りにつながった。
- ・授業の導入がやや長かったか。子どもの既存知識とのギャップを作る他にも、興味・関心から入る方法もある。45分という時間で、目的をはっきりとさせ、どのように構成するかが大切である。

### 【中央区・緑区ブロック】

**会場校** 金沢小学校 **題材名** 「店のしごと」 **授業者** 河邑 響 先生

**内容** スーパーマーケットを題材に「お店で働く人はなぜたくさん工夫をしているのだろう」という学習課題のもと、消費者である保護者・教員や販売者である店の店員のインタビュー活動を通して、販売店は消費者のニーズにこたえるためにさまざまな工夫をしていることを気づかせることを狙いとした内容であった。授業は、今までの学習を確認し、グループ活動を行ったのち、まとめを行った。グループ活動では、ホワイトボードや付箋紙を使い、「お客様の願い」と「働く人の工夫」とを関連付けて考えさせ、「お店ではたらく人は、お客様の願いをできるだけ叶え、お客様が買い物をしやすくするためにたくさん工夫をしている」というまとめに導いた。教室は掲示物がきれいに整理されており、児童たちが過去の学習を振り返りやすいように工夫されていた。

〔協議会から〕

Q：授業の流れでは、お店の目的がお客様の要望に応えるという内容になってしまっている。しかし、企業は利潤の追求が第一であるため、それも伝えなければいけないのではないかと。

A：企業は利潤の追求が第一であることは当然のことと捉えている。しかし、小学三年生は、昨年まで生活科の学習をしていたため、社会科の学習は今年からになる。地域の産業と自分たちの生活との関わりに気づかせるための単元であるため、今回の学習ではあえて利潤追求は取り入れなかった。

〔意見・感想〕

- ・まとめには、店はもうけを出すためにいろいろ工夫していると書いている児童もいたので、店には利益の追求の側面もあることを伝えてもよいと思う。
- ・小学校での経済学習と中学校の経済学習では、学習に対する理解に差があるために到達目標が異なっていた。

〔助言者より〕

- ・現地インタビューをしっかりと行う事ができていたので、学習がスムーズであった。
- ・「お店の人々が様々な工夫をしているのは、お客様の願いをかなえるためだ」という説明には、違和感がある。お客様の要望に応える目的もあるが、利益の追求につながるからだとして説明する方が筋が通るだろう。

### 《11月例会のお知らせ》

11月例会は、11月20日(火)に下記の通り実施いたします。各会員の皆様は、参観したい分野へご参加ください。なお、各会場とも駐車スペースが厳しくなることが予想されます。公共交通機関を利用するか、乗り合わせてお越しください。（※稲毛高等学校附属中学校は市教育会館の駐車場を利用、乗り合わせでお願いします）

<b>【歴史的分野】</b>	千葉市立花園中学校	2学年	椎名 龍 先生
	単元名	「文化から振り返る近世社会の移り変わり」	
	※家庭科部会の授業研究もあるため、乗り合わせ、または公共交通機関を利用		
<b>【地理的分野】</b>	千葉市立蘇我中学校	1学年	荒井 亮輔 先生
	単元名	「アジア州～水問題から考えるアジア州の地域的特色」	
	※当日が雨の場合は公共交通機関を利用（駐車場が確保できなくなるため）		
<b>【公民的分野】</b>	千葉市立稲毛高等学校附属中学校	3学年	谷藤 良昭 先生
	単元名	「地方自治と私たち」	
	※駐車場は市教育会館（乗り合わせで）		

（今号担当：高洲第二中学校 木本 和道）



日増しに秋の深まりを感じる季節となりました。会員の皆様におかれましては、成績処理、生徒会行事の準備、部活動の新人戦等お忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。今号におきましては、9月例会の報告と10月例会の開催についてお知らせいたします。

## 《9月例会の報告》

### 平成31年度 第37回関東ブロック中学校社会科教育研究大会千葉大会 (千葉県教育研究会社会科教育部会研究大会千葉大会) 研究計画 提案

提案者 石橋 崇 先生 (高洲第一中)

#### [研究主題]

変貌する未来を切り拓く社会科学習  
～手応えの発見につながる『深い学び』の探求～

#### ○ 主題設定について

21世紀の社会は、情報化・グローバル化・高齢化の進展、産業構造の変化、地球環境問題の深刻化、人々の価値観の多様化など、急速に変貌を続けている。このような社会を生きていくために必要な力を明らかにし、身に付けさせていく必要がある。予測不能な程変貌する未来を積極的に切り拓くための力を育む社会科学習の在り方について、本部会として追及していきたい。

学習指導要領改訂の方向性から見ると、研究主題に掲げている「未来を切り拓く」とは、変貌する未来に対して、自ら積極的に関わり、社会や人生をよりよいものにしていこうとする主体的な姿勢をイメージしたものである。これは、答申の中で述べられている「子供たち一人一人が予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることとまさに合致していると考えている。

#### ○ 研究の副題について

##### ① 「深い学び」について

「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力・判断力・表現力等」の育成を行うことで「知識及び技能」の習得につながったり、「学びに向かう力、人間性等」が涵養されたりする。新学習指導要領に「生きる力」を育てるために育成すべき素質・能力の3本柱の一つである、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の育成」が「変貌する未来を切り拓くための力」につながると考えている。

##### ② 「深い学びの探求」について

子どもたちと教師が、それぞれの立場で「深い学び」を探し求めていきたいと考えている。

③ 「手応えの発見」について

「分からないことがわかった」「未知の状況が読み解けた」と感じる 때가「手応え」と言える。「手応え」を実感したことで「手応えの発見」として表現できる。この原動力こそがまさに、「主体的な学び」に相当するものとしてとらえることができる。

○ 研究主題・副題から研究内容へ

単元という大きなまとまりの中で、どのような学習活動を組み立てていくかや子どもにどのような社会認識を深めていくか、という視点にたつて、「単元における思考の構造化」と「思考の深化に対応した単元の指導計画」を一つの研究内容として進めていきたいと考える。また、主体的・対話的な授業づくりをめざし、「手応えの発見」につなげていきたい。

○ 「深い学び」に導く単元づくりについて

「深い学び」を探究していく中で、単元全体を通した社会認識の構造化について考えたい。単元づくり・授業づくりで大切なことは、授業者があらかじめ、生徒の内面に具体的にどのような社会認識を形成し深化していくのかを考えていくことである。教師側の視点に立った単元全体の把握、つまり思考の構造図をしっかりとめていく必要がある。また、生徒側の思考の深化に対応した単元の指導計画を作成することも大切である。

授業者の課題設定では、生徒が自然に受け入れられ、生徒の疑問がその後の展開につながるこそが生徒の「主体的な」学びにつながる。指導案の中に、「主体的な学び」の項目を設け、授業者の意図をわかりやすくつたえられるように工夫をする。深い学びにつながった活動を「対話的活動」としてとらえる。

## 《10月例会のお知らせ》

10月16日（火）、市内3か所の小学校で10月例会を実施いたします。

会場については、ご自分の希望の小学校へご参加ください。異校種の授業を参観することで得られるものも多いと思います。ぜひ、多くの会員の皆様にご参加いただき、有意義な研修にしてください。またその後、次回開催されます11月例会の指導案検討がありますので、下記の中学校にご移動の上、ご参加いただければと思います。

分野	小学校参観	指導案検討
公民	千葉市立海浜打瀬小学校 6年生 郡司 恭大 先生 単元名 「明治の国づくりを進めた人々」	千葉市立打瀬中学校 ※駐車場は、打瀬中学校に駐車して、小学校の参観に参加してください。
地理	千葉市立稲毛小学校 6年生 鱸 真究 先生 単元名 「明治の国づくりを進めた人々」	千葉市立朝日ヶ丘中学校 ※稲毛小学校での参観の先生は、稲毛中学校に駐車してください。
歴史	千葉市立金沢小学校 3年生 河邑 響 先生 単元名 「自動車をつくる工業」	千葉市立有吉中学校 ※金沢小学校では、車の駐車できませんのでご注意ください。

※打瀬中学校・稲毛中学校共に、駐車スペースには限りがございますので、お乗り合わせの上お越しいただくなど、ご協力お願い申し上げます。

(今号担当：蘇我中 加瀬 瞳)